

## 両親像について (2)

— 大学生の捉える父親の現実像と理想像 —

猪野郁子\*・堀江鈴子\*\*

Ikuko INO and Reiko HORIE

The Children's Image of Parents (2)

-The student Take a View of the Real Father and the Ideal Father-

〔Key Word：父親・愛情因子・社会生活因子・人生観因子・経済的因子〕

### 1 はじめに

われわれは、前報<sup>①</sup>において、小学生が両親をどの様な役割を果たす人間とみているか報告した。母親の就労が一般的になりつつある現代、父親の役割が家庭生活や子育てにもう少し発揮されているのではないかと仮定していたが、子どもたちには父親は従前の家族の中心的存在として捉えられ、依然として家事育児への参加は低く、母親は職業も家庭もと二重の仕事をこなしておりこのことに子どもたちは何等疑問をもてはなかった。

T.パーソンズの伝統的な性別役割観に根ざす父親＝道具的役割、母親＝表出的役割という考え方は、確かに崩れている。総理府や各県の性別役割分業に関する統計は、特に女性の否定派が増えていることを物語っている<sup>②</sup>ことからもうかがえる。

また、こうした性別役割は、ナンシー・チョドロウを引用して井上輝子は「子育てを女がするから再生産される」のだとしている<sup>③</sup>ように、母親の養育態度の影響が大きいことを示唆している。しかし、養育態度にモデルとしての両親の言動も加わって将来父親や母親になったときの行動や役割モデルが形成されるのではなからうか。

NHK放送世論調査所の父親調査によると<sup>④</sup>、昭和40年代後半から50年代にかけての青年は優しく友達のような父親をイメージし、仲間型の父親を望んでいる。当時の青年たちが小学生の頃は、高度経済成長期であり父親たちは大変忙しい生活をしていた。子どもとの接触機会がほとんど持てなかった時期でもある。

当時の父親たちは、家父長制での父親をモデルとして育ちながら民主主義での父親像を作らねばならなかった。しかし、日本の経済復興のために家族より会社への忠誠を優先し新しい父親像を作るための精神的・時間的余裕

が持てないことを理由に父親像を作ってこなかったのが実状である。

このことは、家庭の教育力の低下とつながっている。加えて、女性の自立はめざましく、固定的な性別役割意識を打破しようとする運動は先に述べたように少しずつ成果を上げつつある。しかし残念ながら、子育てになかなか父親が参加できないことである。それは、労働形態等労働状況に起因することと父親として子育てにどう関わるか、父親役割として経済的要素だけが明確であって他に何を成すべきかが学べていないことが関係している。

父親の家庭回帰を求める声は、最近とみに高くなっている。子どもたちのさまざまな問題は母親だけの力では解決することが出来ず父親を含めた家族で当たることが要求される場合が多い<sup>⑤</sup>。

父親も母親も職業生活をするようになっている現在、パーソンズのいう道具的役割と表出的役割をどう分け合うのか、いや、新しい役割を作るのか、「心理学的両性性」にいわれるように、その場にいる者がその場に合った役割を果たすのか。男女共同社会での父親役割母親役割を早急に作ることが要求されている。

そこで、本報では近い将来親になるであろう大学生が自分の父親をどう捉えており、それが将来なりたいとする父親像に関係しているかどうかをみることによって、モデルとしての役割と将来の父親像を探ろうとした。

### 2 対象と方法

大学生を対象とした。男子学生110名、女子学生126名の計236名である。学生の年齢は、18～20歳、父親の年齢は42～63歳で、45～54歳が7割近くを占めている。父親の職業は、会社員、公務員等のいわゆるホワイトカ

\* 島根大学教育学部家政研究室

\*\* 島根大学教育学部附属中学校

ラーがほとんどであった。

質問紙調査を実施した。質問項目は、今泉信人の「女子大生の父親像と母親像の研究」<sup>9)</sup>を参照して作成した。

質問紙は、大学生がみる父親と大学生がなりたい(夫になってもらいたい)父親をみるそれぞれ39項目から構成されている。それらは経済面、愛情面、人格形成面および社会生活面から成っている。各項目毎に「とてもそう思う」から「全くそう思わない」の4段階で評価させ、それを4点法で得点化を行い平均点と標準偏差を算出してt検定を行った。

調査は、1993年10月に実施された。

### 3 結果と考察

#### 1) 大学生の捉える父親

##### a 各項目への評価

大学生は自分の父親をどう捉えているのであろうか。質問した39項目の平均点を男性の得点の高い順に並べたものが表1である。男女とも経済生活の支えや自分のことを考えて(愛して)くれる人として父親を高く評価している。

最近の高学歴化は、必然的に親に依存した生活を長引かせ経済的にも依存の割合を高めている。現代っ子といわれる学生の側もこの点は十分に納得しているようである。

男子学生と女子学生で父親の捉え方に違いがみられたのは、4項目であった。

「生きていくことの厳しさを教えてくれる人」と「悩みの相談相手になってくれる人」で男性に高く、「幸せを考えてくれる人」と「進路の決定に影響与える人」で女性に高くなっている。

これは、父親がそうした態度を取っているのかそれとも子ども側が期待している結果としてなのかはここからは判別できない。つまり、女性が悩みを相談する際は母親にすることはあっても父親にはしないのか、それとも、父親の側に娘の相談には乗りにくいとする態度があるのかどちらであろうか。

どちらかと言えば、父親とは男子には直接影響を与える人であり、女子には間接的に影響を与える人であるといえよう。

##### b 因子分析

この39項目がわれわれが期待した4つの因子に分解できるか因子分析を実施した。その結果4因子とした場合に最適解を得た。但し、因子負荷量0.48以上を残すと9項目が除外された。4因子と負荷量は表2に示す。

第一因子は、愛情・理解・保護等に関する項目が含まれているので「愛情表出者としての父親(愛情因子と略す)」因子と命名した。ここには11項目が含まれる。

第二因子は、社会生活や家庭生活のあり方・働くことや生きることの厳しさを教える、みせる等社会生活に関わる項目が含まれるので「社会生活を教える人としての父親(社会生活因子と略す)」因子とした。10項目含まれる。

第三因子は、人生の目標や人生観の基本を育てる等の項目がみられるので「人生観を育てる人としての父親(人生観因子と略す)」因子とした。7項目含まれる。

第四因子は、経済的生活を支える等経済生活に関する項目なので「経済的支柱としての父親(経済的因子と略す)」因子とした。2項目含まれる。

各因子毎に、含まれる項目の平均と標準偏差を算出し因子間のt検定を実施した。結果は、表3である。

男子も女子も、経済的因子が最も高く、人生観因子が最も低い。女子は各因子間に有意差がみられ、父親評価の重みづけがはっきりしているが、男性は、社会生活因子と愛情因子はほぼ同評価である。

男女間では、社会生活因子と愛情因子で有意差がみられ、女子が愛情表出では男子より高く評価している。

一般的に、父親は息子よりも娘に甘い<sup>10)</sup>といわれており、また、女子が男子よりも父親のことを愛情深く捉えていることは報告されている<sup>9)</sup>。

#### 2) 大学生のなろうとする父親像

##### a 各項目への評価

ここでは、男子学生が将来どんな父親になろうと考えているのか、女子学生は将来自分の夫になる男性にどんな父親になってもらいたいと考えているのかをみていく。

表1に、各項目の得点を示した。全般的に、現実の父親への評価よりも、また女子学生の方が男子学生よりも得点が高いことが注目される。つまり、期待値が高いこと、中でも女子学生のそれは男子学生に比べて有意に高いことである。特に、「いざというとき頼りになってくれる人」や「子どもを心から愛してくれる人」への期待は、女子学生は3.90以上と非常に高い得点になっている。

上位の項目をみると、どちらかと言えば、「教える」とか「姿をみせる」といった人生のモデルを父親に志向するのではなく、「頼りに」なり「子どもを理解し、愛する」父親を志向している。こうした面は、現実の父親像でもどちらかといえば女子学生に強く捉えられていたが、父親への期待はこのようなところにあると見てよいであろう。

表1 大学生の父親像と将来望む父親像

	現実の父親像		理想像	
	男性( $\bar{X}\pm SD$ )	女性( $\bar{X}\pm SD$ )	男性( $\bar{X}\pm SD$ )	女性( $\bar{X}\pm SD$ )
経済的生活を支える人	3.45±0.93	3.60±0.67	3.35±0.88	3.56±0.59 *
私の(子どもの)学費をつくりだしてくれる人	3.42±0.84	3.48±0.81	3.25±0.82	3.41±0.69
私の(子どもの)成長を喜んでくれる人	3.16±0.83	3.34±0.74	3.45±0.76	3.86±0.37 **
いざというときに頼りになってくれる人	3.14±0.87	3.08±0.84	3.55±0.74	3.91±0.31 **
私の(子どもの)幸せを考えてくれる人	3.05±0.93	3.31±0.83 *	3.51±0.63	3.88±0.33 **
私の(子どもの)将来のことを考えてくれる人	3.04±0.87	3.14±0.90	3.36±0.75	3.73±0.50 **
私を(子どもを)心から愛してくれる人	3.03±0.82	3.16±0.80	3.42±0.72	3.90±0.36 **
私を(子どもを)叱ってくれる人	3.03±0.77	2.85±0.88	3.42±0.72	3.78±0.43 **
勤勉な姿を見せてくれる人	2.96±0.93	2.87±0.95	3.04±0.88	3.38±0.66 **
働くことの大切さや厳しさを教えてくれる人	2.96±0.86	2.87±0.87	3.12±0.81	3.53±0.63 **
社会生活のモラルを教えてくれる人	2.89±0.88	2.77±0.84	3.17±0.84	3.39±0.62 *
生きていくことの厳しさを教えてくれる人	2.86±0.80	2.63±0.84 *	3.05±0.88	3.40±0.72 **
私の(子どもの)体の健康を気づかってくれる人	2.85±0.91	2.78±0.89	3.45±0.76	3.64±0.52 *
身近な生活の知恵を教えてくれる人	2.85±0.90	2.65±0.88	3.03±0.85	3.27±0.78 *
私の(子どもの)性格形成に影響を与えてくれる人	2.81±0.88	2.82±0.81	2.88±0.89	3.31±0.71 **
我慢強い姿を見せてくれる人	2.76±0.89	2.64±1.02	2.93±0.83	3.37±0.69 **
私の(子どもの)人生観の基本を育ててくれる人	2.72±0.88	2.56±0.78	2.95±0.90	3.36±0.68 **
誠実な姿を見せてくれる人	2.71±0.90	2.77±0.88	3.22±0.73	3.58±0.56 **
おだやかな姿を見せてくれる人	2.69±0.80	2.59±0.87	3.07±0.71	3.50±0.59 **
政治や社会のしきみを教えてくれる人	2.67±0.89	2.59±0.86	2.87±0.86	3.21±0.70 **
私の(子どもの)頼みを聞いてくれる人	2.65±0.74	2.79±0.87	2.87±0.83	2.98±0.74
男性のあるべき姿を教えてくれる人	2.64±0.96	2.45±0.89	3.06±0.85	3.27±0.78
私を(子どもを)よく理解してくれる人	2.61±0.94	2.48±0.85	3.39±0.80	3.81±0.42 **
家庭生活のモラルを教えてくれる人	2.60±0.90	2.44±0.89	3.10±0.81	3.40±0.75 **
私を(子どもを)事故や外敵から守ってくれる人	2.57±0.86	2.77±0.83	3.12±0.81	3.58±0.57 **
愛情豊かな姿を見せてくれる人	2.54±0.81	2.60±0.86	3.10±0.80	3.70±0.94 **
私が(子どもが)生きていく上で心の支えになってくれる人	2.48±0.90	2.51±0.79	3.01±0.85	3.35±0.71 **
厳格な姿を見せてくれる人	2.45±0.91	2.41±0.96	2.82±0.90	3.10±0.76 **
私の(子どもの)才能を伸ばしてくれる人	2.45±0.79	2.28±0.73	3.15±0.86	3.52±0.66 **
人生の目標や指針を与えてくれる人	2.36±0.91	2.33±0.77	2.78±0.93	3.14±0.81 **
私の(子どもの)生活習慣を教えてくれる人	2.32±0.88	2.19±0.70	2.98±0.85	3.09±0.78
私が(子どもが)帰っていく故郷のような人	2.32±0.83	2.43±0.97	2.64±1.05	3.18±0.88
悩みの相談相手になってくれる人	2.29±0.86	1.93±0.82 **	3.26±0.84	3.59±0.59 **
私と(子どもと)遊んでくれる人	2.24±0.87	2.23±0.92	3.13±0.84	3.62±0.52 **
私の(子どもの)進路の決定に影響を与える人	2.23±0.90	2.48±0.94 *	2.30±0.93	2.84±0.88 **
人との交際の仕方を教えてくれる人	2.21±0.90	2.27±0.81	2.63±0.88	2.95±0.77 **
私に(子どもに)いろいろなものを買ってくれる人	2.10±0.81	2.28±0.91	2.05±0.78	2.12±0.71
私と(子どもと)家族とのパイプ役になってくれる人	2.02±0.86	1.85±0.76	2.55±0.94	2.81±0.87 *
女性のあるべき姿を教えてくれる人	1.85±0.76	1.83±0.58	2.27±0.94	2.52±0.85 *

表2 因子及び因子負荷量

項 目		第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
愛 情 因 子	私を心から愛してくれる人	0.846	0.215	0.743	-0.800
	私の幸せを考えてくれる人	0.809	0.181	0.560	0.130
	私の成長を喜んでくれる人	0.743	0.219	0.573	0.151
	私の将来のことを考えてくれる人	0.658	0.231	0.131	0.284
	私の頼みを聞き入れてくれる人	0.648	-0.401	0.240	0.185
	私をよく理解してくれる人	0.646	0.120	0.394	0.115
	愛情豊かな姿を見せてくれる人	0.628	0.258	0.346	-0.083
	私の体の健康を気づかってくれる人	0.574	-0.232	0.201	0.020
	おだやかな姿を見せてくれる人	0.550	0.277	0.339	-0.121
	私を事故や外敵から保護してくれる人	0.515	0.166	0.301	0.085
私がいつか帰っていく故郷のような人	0.498	0.253	0.409	0.215	
社 会 生 活 因 子	働くことの大切さや厳しさを教えてくれる人	0.141	0.744	0.021	0.031
	厳格な姿を見せてくれる人	-0.206	0.079	0.305	0.014
	生きていくことの厳しさを教えてくれる人	0.222	0.680	0.029	0.048
	社会生活のモラルを教えてくれる人	0.206	0.650	0.093	0.203
	誠実な姿を見せてくれる人	0.478	0.586	0.237	-0.118
	勤勉な姿を見せてくれる人	0.249	0.562	0.151	-0.197
	家庭生活のモラルを見せてくれる人	0.208	0.528	0.147	0.061
	我慢強い姿を見せてくれる人	0.203	0.516	0.363	-0.150
	私を叱ってくれる人	-0.104	0.490	0.203	0.287
男性のあるべき姿を見せてくれる人	0.174	0.489	0.447	0.175	
人 生 観 因 子	私と家族とのパイプ役を勤める人	0.111	0.117	0.670	-0.122
	人生の目標や指針を与えてくれる人	0.257	0.234	0.608	0.068
	私の才能を伸ばしてくれる人	0.333	0.126	0.588	0.073
	女性のあるべき姿を考えさせてくれる人	0.790	0.173	0.583	0.027
	私の人生観の基本を育ててくれる人	0.253	0.372	0.543	0.157
	私と遊んでくれる人	0.290	0.234	0.532	-0.035
	私の進路の決定に影響を与える人	0.269	0.229	0.512	0.145
経 済 的 因 子	経済的生活を支えてくれる人	0.134	0.105	0.043	0.831
	私の学費を作り出してくれる人	0.111	0.131	0.091	0.810

b 因子別評価

将来なろうとする父親像を4因子毎に平均と標準偏差を算出し各因子間と男女間の差の検定を行った。結果は表4である。

男子学生と女子学生では、経済的因子と愛情因子の平均点の順位が逆になっている。男子学生では、経済的因子と愛情因子はほぼ同じ評価であり、女子学生では、経済的因子と社会生活因子がほぼ同じ評価である。4因子とも男女間で有意な差がみられ、さきに述べたように、いずれも女子学生の評価が高い。

3) 現実の父親像と将来像との関係

大学生の将来の父親像に、現実の父親像が影響しているかみるために、各因子を構成する項目の得点から各因子の平均点を算出しそれが3.0点以上のグループ(肯定群)と2.9点以下のグループ(否定群)に分けて将来なろうとする父親像に違いがみられるかをみた。つまり、

表3 因子別にみた父親像

		FACTOR	$\bar{X} \pm S. D$	t 因子	t (男女)
男	1	経済的支柱としての父親	3.45±0.85	**	
	2	社会生活を教える人としての父親	2.79±0.88		
	3	愛情表出者としての父親	2.78±0.86	**	
	4	人生観を育てる人としての父親	2.24±0.88		*
女	1	経済的支柱としての父親	3.54±0.74	**	**
	2	愛情表出者としての父親	2.85±0.90	**	
	3	社会生活を教える人としての父親	2.67±0.91	**	
	4	人生観を育てる人としての父親	2.22±0.82		

\* P<0.05    \*\* P<0.01

表4 因子別にみた将来望む父親像

		FACTOR	$\bar{X} \pm S. D$	t 因子	t (男女)
男	1	経済的支柱としての父親	3.29±0.84		**
	2	愛情表出者としての父親	3.21±0.82	**	**
	3	社会生活を教える人としての父親	3.10±0.82	**	**
	4	人生観を育てる人としての父親	2.74±0.96		**
女	1	愛情表出者としての父親	3.61±0.61	**	**
	2	経済的支柱としての父親	3.48±0.64		**
	3	社会生活を教える人としての父親	3.42±0.69	**	**
	4	人生観を育てる人としての父親	3.11±0.85		**

\* P<0.05    \*\* P<0.01

現実の父親像の愛情因子を構成する11項目の平均を算出して肯定群と否定群に分け、将来像とする愛情因子の11項目各々について差の検定を行った。結果は表5ある。

a 愛情表出者としての父親

現実の父親を愛情ある人と肯定しているグループ(103人)は、11項目全てで否定しているグループ(121人)より有意に愛情面を期待している。つまり、父親を愛情表出者と捉えている学生はわが子にも愛情ある態度をとる父親(夫)でありたいとしているということである。

長島貞夫は、「父と子のスキンシップによる愛情確認は子どもの根性(欲求不満耐性)づくりや生活の知恵の習得に役立ち、また、子どもたちに心の安らぎを与えるだろう」と述べている<sup>9)</sup>ように、現代の子どもにも必要とされる「耐性」を育てるには父親の愛情が欠かせないようである。さらに、ハネ＝ローレ・フォン・カーニッツは未来の父親に期待される才能の一つとして「愛する能力」を上げている<sup>10)</sup>。要するに、子どもが父親から愛されていると認識するようなふれ合いが父親と子どもの間に存在し、子どもがそれを認識して成長すれば、同じように子どもを愛する父親になるということであろう。

b 社会生活を教える人としての父親

社会生活因子では、10項目中9項目で有意な差異が見られた。ここでも父親を社会生活のモデルとみている肯定グループ(86人)は、否定グループ(150人)に比べ有意に将来父親になったときに(あるいは夫に)子どもに社会生活のモデルとしての役割を果たしたいとしている。

c 人生観を育てる人としての父親

この因子の肯定グループは26人と4因子の中で最も少ない人数であったが、7項目全てに否定グループとの間に有意差がみられた。すでに述べてきたように、社会生活とともに人生観に関わる因子は、学生からはあまり期待されていない。どちらかといえばしつけや育て方に関わる事柄は父親より母親の役目とみているからであろう。固定的な性別役割観が根強く生きていることが伺われる。

## d 経済的支柱としての父親

経済的因子は現実の父親像では高く評価されており、将来像としても高く要求されているように、父親を経済的生活を支える人と肯定する学生は202人と4因子の中で最も多い。

否定グループとの間に有意差がみられる。人生観の項でも述べたように、ここでも「父親=生計主体者」という伝統的な性別役割観がみられる。既婚女性の半数が就

業している現実<sup>10)</sup>からみても、就労する母親を持つ学生もかなりいると思われるが、父親がいるから就学できるという思いは強いようである。

以上、各因子毎に現実像が将来像に影響しているかみたところ、肯定群と否定群間に因子を構成する項目のほとんどで有意な差異がみられた。このことから、現実の父親像は将来像のモデルであるといえよう。

表5 現実の父親像と理想像との関係

項 目		肯定群 $\bar{X} \pm SD$	否定群 $\bar{X} \pm SD$	t 検 定
愛情 因子	子どもの体の健康を気づかう人	3.78±0.51	3.35±0.63	***
	子どもを事故や外敵から保護する人	3.63±0.56	3.14±0.81	***
	子どもの幸せを考える人	3.89±0.31	3.52±0.62	***
	子どもを心から愛する人	3.87±0.38	3.47±0.70	***
	子どもの成長を喜ぶ人	3.87±0.36	3.47±0.74	***
	子どもの頼みを聞き入れる人	3.07±0.71	2.80±0.83	**
	子どもをよく理解してくれる人	3.82±0.40	3.42±0.75	***
	子どもがいつか帰っていく故郷のような人	3.28±0.91	2.61±0.99	***
	子どもの将来のことを考える人	3.74±0.53	3.39±0.70	***
	子どもにおだやかな姿を見せる人	3.50±0.59	3.13±0.69	***
子どもに愛情豊かな姿を見せる人	3.66±0.51	3.19±0.80	***	
社会 生活 因子	子どもに社会生活のモラルを教える人	3.48±0.68	3.18±0.75	**
	子どもに生きていくことの厳しさを教える人	3.47±0.69	3.10±0.84	***
	働くことの大切さや厳しさを教える人	3.51±0.60	3.23±0.79	**
	子どもに家庭生活のモラルを教える人	3.46±0.71	3.12±0.83	**
	子どもに厳格な姿を見せる人	3.33±0.71	2.75±0.82	***
	子どもに我慢強い姿を見せる人	3.39±0.69	3.02±0.81	***
	子どもに勤勉な姿を見せる人	3.45±0.69	3.07±0.79	***
	子どもに男性のあるべき姿を見せる人	3.41±0.81	3.00±0.87	***
	子どもに誠実な姿を見せる人	3.61±0.59	3.28±0.67	***
	人生観 因子	子どもの才能を伸ばす人	3.46±0.66	3.19±0.92
子どもの性格形成に影響を与える人		3.22±0.78	2.92±0.96	*
子どもの人生観の基本を育てる人		3.57±0.57	3.10±0.84	**
子どもの人生の目標や指針を与える人		3.42±0.70	2.90±0.89	**
子どもの進路の決定に影響を与える人		3.23±0.81	2.49±0.93	***
女性のあるべき姿を考えさせる人		3.00±0.80	2.32±0.88	***
子どもと家族のパイプ役をつとめる人		3.26±0.77	2.60±0.90	***
経済的 因子	子どもの学費を作り出す人	3.45±0.65	2.64±0.91	***
	経済的生活を支える人	3.56±0.63	2.85±1.01	***

\*P&lt;0.05    \*\*P&lt;0.01    \*\*\*P&lt;0.001

#### 4 要 約

父親は子どもからどの様に捉えられ、その現実像が将来成ろうとする父親（将来の夫に求める父親）像に影響を及ぼしているかどうかを、大学生を対象に質問紙調査の結果から検討したところ次のような結果を得た。

- 1) 自分の父親を自分たちの経済生活を支え、子どもの成長を喜び、頼りになってくれる人と捉えていた。
- 2) 男子学生は、生活の厳しさなどを教える人と捉え、女子学生は、幸せを考えてくれる人と捉えていた。
- 3) 39項目は4因子に分解でき9項目が除外された。
- 4) 経済的因子は、男女学生とも最も高く評価し、人生観因子を最も低く評価していた。
- 5) 将来成ろうとする父親は、子どもの頼りになり幸せや成長を喜ぶ父親であった。
- 6) 39項目中34項目で男女差がみられ、女子学生の夫（子どもの父親）への期待が大きくみられた。
- 7) 将来像の因子では、愛情因子が最も高く評価されているが、ここでも人生観因子が最も低い評価であった。
- 8) いずれの因子も、現実像が将来像のモデルになっていた。

以上である。

父親への期待が高まって久しい。こうした期待に応えるように、前報でも述べたように子どもとの関わりを持ち始めた父親たちが増え始めている。

しかし、多くの父親たちが働き蜂の父親をみて育ててきていることから、家族の経済を支えるために父親たちと同じ道をたどるであろうことは容易に推測されよう。

学生たちが、人生観や社会生活の因子を父親にあまり期待していないのは固定的な性別役割観が強く影響しているからであるが、その性別役割観の形成に現実の父親が影響していることを考えると当然といわねばならない。

子どもの人格形成や社会化に父親が関係していないかといえば、多くの研究<sup>(7)(8)(9)</sup>はその形成過程での父親の影響を述べている。

確かに、現実には母親だけで用が足りている感もみられる。そのことが父親の存在感を希薄にしているのであろうが、経済面を負担してさえおればよいというわけではなく、子どもに自分の個性や人生観を伝えることが子どもの発達に重要な役割を果たしていることを認識する必要がある。

そして、子どもの人生観や社会生活に責任を持つようになるためには、生活スタイルの変換が必要であろう。女性だけが必死で家族の生活を守るのではなく妻と夫が

協力して経営すると言う基本に帰らねばならないであろう。

親役割の形成は、母親の養育態度やモデルに任せればよいのか、それとも教育の果たす役割も存在するののかの検討も必要である。また、父親と子どもの関係には必ず母親の存在が大きく関係していることから、父・母・子どもの三者の関わりから考察していくことも必要である。今後の課題としたい。

最後に、調査に協力下さいました学生諸君並びに時間を提供下さいました教官各位にここに感謝の意を表します。

本論文の要旨は第41回日本家政学会中四国支部研究発表会において口頭発表した。(1994, 香川県)

#### 文 献

- (1)猪野郁子他：両親像について、島根大学教育学部紀要（人文・社会科学）26, 31-37, 1992
- (2)総理府：女性に関する世論調査, 1990
- (3)井上輝子：女性学への招待, 有斐閣選書, 1992
- (4)吉田昇他：現代青年の意識と行動, NHKブックス, 1978
- (5)国谷誠朗編：講座家族心理学3, 金子書房, 1988
- (6)今泉信人：女子学生の父親像と母親像の研究, 日本教育心理学会第21回総会発表論文集, 1979
- (7)柏木恵子：父親の発達心理学, 川島書店, 1993
- (8)D.B.リン著, 今泉信人他訳：父親その役割と子どもの発達, 北大路書房, 1981
- (9)長島貞夫編：児童心理選集, 子どもと父親・母親, 金子書房, 1976
- (10)ハネ＝ローレ・フォン・カーニッツ著, 小川新一訳：父親 その新しい役割, 講談社, 1981
- (11)日本婦人団体連合会編：婦人白書1994, ほるぷ出版, 1994